

令和2年度 大学院医学院修士・博士課程へ進学される皆様へ

皆さん、北海道大学大学院医学院への進学、おめでとうございます。教職員一同を代表してお祝い申し上げますとともに、皆さんを心から歓迎いたします。

北海道大学大学院医学院の前身である医学研究科は新制大学院制度の発足に伴って昭和30年に設置されました。その後、平成12年に大学院重点化が行なわれ、従来の学部を中心とした教育研究組織から大学院を中心とした教育研究組織へと移行し、大学院における教育と研究の充実を図りました。修士課程については、他の多くの大学に先駆けて平成14年に修士課程（医科学）を設置しました。

そして平成29年4月、北海道大学大学院医学研究科は、変化の著しい社会のニーズに応える人材を機動的に輩出するため、これまで教育組織と研究組織が一体であった「研究科」を大学院生が所属する「学院」と教員が所属する「研究院」に分離し、異分野を有機的に融合したグローバルな大学院教育の展開を可能にしました。すなわち、学院での教育は複数の研究院および附置研究所等の教員が担当できるようになり、研究領域に縛られることなく教育資源の再配分を可能にしました。この新システムの導入により、社会が要請する新たな教育を実施する場合、教員組織再編を伴わずに迅速に教育組織を設置することが可能になりました。

医学院の理念として、「世界をリードする先進的医学研究の推進、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人の育成による人類の健康と福祉への貢献」を掲げ、医学・生命科学・社会医学（公衆衛生学）に関する高い倫理観及び高度な専門的知識と研究及び教育・実践能力を備えた人材の養成を教育目標としています。

今日の医学・医療の進歩には目覚ましいものがありますが、これらの進歩は過去の研究の成果に基づくものです。今日の研究無くして、明日の医学・医療の進歩はありません。しかしながら、最近、我が国の大学では大学院への入学者が減少し、医学・医療の未来を担う若手研究医、若手研究者が減少するという憂慮すべき事態が発生しています。この背景には、研究者として働く機会の減少や新臨床研修制度、新専門医制度の導入などが指摘されています。今後、さらに状況の深刻化を招きかねないと懸念されているところです。このような状況の下、皆さんが医学院に進学する道を選択されたことに対し、心より敬意を表したいと思います。研究者として活躍される方はもちろん、真に力量ある専門医として活躍されたいと思っっている方にとっても、そしてまた、高度専門職業人を目指している方にとっても、本学院において最先端の研究に触れ、自ら研究に携わることは、一生の財産になると確信しています。

これから皆さんは、自身で設定した課題について、自ら実験し、あるいは調査し、そして論じ、結論を導き出す作業を学び、実践します。すなわち、新しい知を自ら生み出すということにチャレンジされるのです。たやすい道のりではありませんが、学問の本質に直接触れることができ、困難や苦労を上回る感動や喜びを感じることができることと思いま

す。そして、皆さんが生み出す知の成果は皆さんだけのものではなく多くの人たち共有の知の財産として、永く引き継がれていくものとなります。

さらに、あきらめず「忍耐強く考え続ける力」を身に着けて頂きたいと思います。さらに、これに加えて、「多様性を尊重し受け入れる精神」を養ってほしいと思います。

皆さんには、医学院在学中に、研究立案遂行能力のみならず激変する社会の変化に対応できる資質と能力を高め、挑戦することに努めていただきたいと思います。

札幌農学校の初代教頭であったクラーク博士が唱えた“lofty ambition”（高邁なる大志）という言葉は世紀を超えて北海道大学を揺るぎなく支えてきた理念であります。この言葉を大切に、大きな夢と高い理想を持ち、立派な研究成果を挙げて学位を取得され、巣立っていかれることを祈念しています。

令和2年4月6日

北海道大学大学院医学院長 吉岡 充弘